

マツホソオオアブラムシ (別名 マツノホソアブラムシ)

二葉マツ類の葉につく灰色のアブラムシ。体長最大2mm弱。白い粉で薄く覆われる。

多発すると葉が黄色になり、樹勢の低下を招くとされる。被害は秋に庭木にでやすいといわれている。



1. 幼虫と成虫，体長最大1.5mm。2000/6/13.

北見市，街路樹のモンタナマツ。

【学名】 *Eulachnus thumbergi* 【分類】 カメムシ目 (Hemiptera) , アブラムシ科 (Aphididae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州：朝鮮，台湾，中国。

【特徴】

マツ類の葉につく良く似たアブラムシにハイマツホソオオアブラムシがある。この種はハイマツにつくといわれ、それらしい種をストロブマツでもみている。五葉マツ類に寄生するように思われる。

【生態】

宿主：マツ属（アカマツ，クロマツ，モンタナマツなど二葉マツ類）。

卵越冬。春早く孵化し，秋まで葉で吸汁加害を続ける。最初は旧葉に寄生するが，新葉が展開するとそこに移動する。卵は葉上や冬芽付近に産み付けられる。

【被害】

本州では害虫とされ，多発すると葉が黄色になり，樹勢が衰えるといわれている。北海道でも普通にみられるが，これまで被害記録はない。

【文献】

1956. 井上元則. 北海道・東北地方の針葉樹に寄生するアブラムシ. 林業試験場北海道支場業務報告，特別報告，5：204-238.
(形態，生態，針葉樹の他のアブラムシについても解説)

1969. Inouye, M. Revision of the conifer aphid fauna of Japan (Homoptera, Lachnidae). 林業試験場研究報告, 228 : 57-102. (形態的特徴の追加, 生活史の概要, 針葉樹の他のアブラムシについても解説)
1977. 奥野孝夫, 田中寛, 木村裕. 原色樹木病害虫図鑑. 保育社, 大阪. (形態, 生態, 防除の解説)
1983. 森津孫四郎. 日本原色アブラムシ図鑑. 全国農村教育協会, 東京.
1994. 小林富士雄, 竹谷昭彦, 編. 森林昆虫, 総論・各論. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 被害, 防除の解説)

独立地方行政法人 北海道立総合研究機構 林業試験場・緑化樹センター

マツホソオオアブラムシ abura/matuhoso/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 独立地方行政法人 北海道立総合研究機構 林業試験場, 2001/2/8.
musi.JPG

「写真1」 原秀穂, 独立地方行政法人 北海道立総合研究機構 林業試験場, 2000.